

ふるさとを愛し、ふるさとを誇りに思う子どもの育成

★ ふるさと教育の推進 ★

○ ほら、校区の特性を生かしたふるさと教育 ○

◆三隅中校区では、地域を愛する子どもの育成と、ふるさと教育の全体計画の作成・共通理解を柱に取り組みました。総合的な学習の時間を中心に、公民館、地域の方、社会福祉協議会等の協力を得ながら進めてきました。そして、実践を振り返り、年度末には全体計画や年間指導計画の見直しを各学校で行っています。

中学校では、9割を超える生徒がふるさと教育に関して意欲的に取り組んでいると答えています。小学校でも、4段階評価で平均が3.5と地域との学習を楽しく感じている児童が多いことが伺えます。お世話になった地域の方を招いて、学んだことを発表する機会を持った学年も多くありました。また、生活科、総合的な学習の時間の全体計画を見直すことで系統的に学習に取り組めるようになってきました。

アンケート調査からも、「総合的な学習の時間で学習したことが普段の生活に役立つと思う子どもの割合」が、92.2%（市の目標値は85%）、「総合的な学習の時間に、自分で調べ学習に取り組んでいると思う子どもの割合」が、81.8%（市の目標値は62.2%）であり、ともに、目標値を上回っています。充実した「ふるさと教育」が実践



< 手漉き和紙で卒業証書 >



< 三隅習字 書初め会 >

○ びっくり、PTAと地域ぐるみの絆づくり～夏の夕べを親子で楽しむ会～

◆浜田東中校区では、今年で17回目を迎えた「夏の夕べを親子で楽しむ会」は、小学生と中学生、そして、保護者や地域の方との交流の場、また、学校・家庭・地域が一体となった「子育ての場」として心温まる取組をしています。当日は、PTAや地域の協力を受けながら、「ものづくり体験」「食事タイム」「吹奏楽部定期演奏会」などを通して絆づくりができました。

今年度は、島根県PTA連合会からの補助金が復活し、事前の小中連絡協議会を繰り返し、予算の有効活用や準備分担の確認等を綿密に話し合うことができました。また、人員配置も昨年度より、小学校からの参加協力が多く、より小中連携バランスを考えたものとするので、つながりを深めることができました。これからも、共同開催であることを両校の関係者がより意識し、浜田東中校区が、児童生徒の笑顔を多く作り出すために、話し合いを多く持つ良さを生かしながら、今後も無理なく継続していきます。



< ものづくり体験 >



< 吹奏楽部定期演奏会 >

○浜田市では、「ふるさと郷育」ということで地域の財産を生かした学習を進めています。地域の「人・もの・こと」を生かすという意識をもって、地域を見直すことで、改めて学習の全体を見直すことができます。小学校から中学校への流れに無駄はないのか、深めていく流れになっているのか点検をしていくことが必要です。○新学習指導要領のキーワードとして「社会に開かれた教育課程」があります。地域・保護者の力を学校教育の中に取り入れる、地域のために学校ができることは何か考え行動することが求められています。

平成28年度～平成30年度を振り返って

◆表紙にあり、ます4つの視点(①各中学校区で一体となって生活習慣づくり、②学校不適応を考慮し、変化に対応できる子どもの育成、③「総合的な学習の時間」において、自分で調べ学習に取り組んでいると思う子どもの割合の増加、④ふるさとを愛し、ふるさとを誇りに思う子どもの育成)を軸として、平成28年度～平成30年度を振り返ります。○は目標値を上回っていることを表しています。

①各中学校区で一体となった生活習慣づくり
「普段(月～金曜)、1日あたり2時間以上テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯ゲーム、スマートフォンを使ったゲームも含む)をする子どもの割合」の減少。
スタート値(平成26年度) 小学校6年: 32.5% 中学校3年: 29.9%
平成30年度値 ○小学校6年: 29.8% ◎中学校3年: 31.7%
目標値(平成33年度) 小学校6年: 30.0% 中学校3年: 27.0%

「普段(月～金曜)、1日あたり1時間以上家庭学習をする子どもの割合」の増加。
スタート値(平成26年度) 小学校6年: 55.8% 中学校3年: 46.7%
平成30年度値 ○小学校6年: 61.7% ◎中学校3年: 64.4%
目標値(平成33年度) 小学校6年: 64.0% 中学校3年: 55.0%

★スタート値に比べると、メディア等の使用時間は減少し、家庭学習の時間が増加する傾向にあります。しかし、中学生においては、学年が上がることにつれて、携帯電話やスマートフォン使用時間が増加しており、家庭学習の時間も全国に比べると少ない状況があります。「メディア利用と正答率」の関係を見ると、「携帯電話やスマートフォンの利用時間が少ないほど、正答率が高い傾向がある。」と言えます。学校と家庭との強力な連携が必要です！

③学校不適応を考慮し、変化に対応できる子どもの育成
「自分には良いところがあると思っている子どもの割合」の増加。
スタート値(平成26年度) 小学校6年: 79.1% 中学校3年: 73.7%
平成30年度値 ○小学校6年: 76.0% ◎中学校3年: 79.5%
目標値(平成33年度) 小学校6年: 86.0% 中学校3年: 77.0%

「人の気持ちが分かる人間になりたいと思っている子どもの割合」の増加。
スタート値(平成26年度) 小学校6年: 90.4% 中学校3年: 97.0%
平成30年度値 ○小学校6年: 92.4% ◎中学校3年: 96.7%
目標値(平成33年度) 小学校6年: 95.0% 中学校3年: 98.0%

★中学校では、「自分には良いところがあると思う」生徒が増加していることはうれしいことです。今後も、全ての子ども達の「自尊感情」を高める取組を行っていきます。

④ふるさとを愛し、ふるさとを誇りに思う子どもの育成
「総合的な学習の時間で学習したことが普段の生活に役立つと思う子どもの割合」の増加。
スタート値(平成26年度) 小学校6年: 83.5% 中学校3年: 74.1%
平成30年度値 ○小学校6年: 86.9% ◎中学校3年: 85.8%
目標値(平成33年度) 小学校6年: 90.0% 中学校3年: 80.0%

「総合的な学習の時間において、自分で調べ学習に取り組んでいると思う子どもの割合」の増加。
スタート値(平成26年度) 小学校6年: 57.7% 中学校3年: 52.7%
平成30年度値 ◎小学校6年: 75.9% ◎中学校3年: 78.7%
目標値(平成33年度) 小学校6年: 65.0% 中学校3年: 60.0%

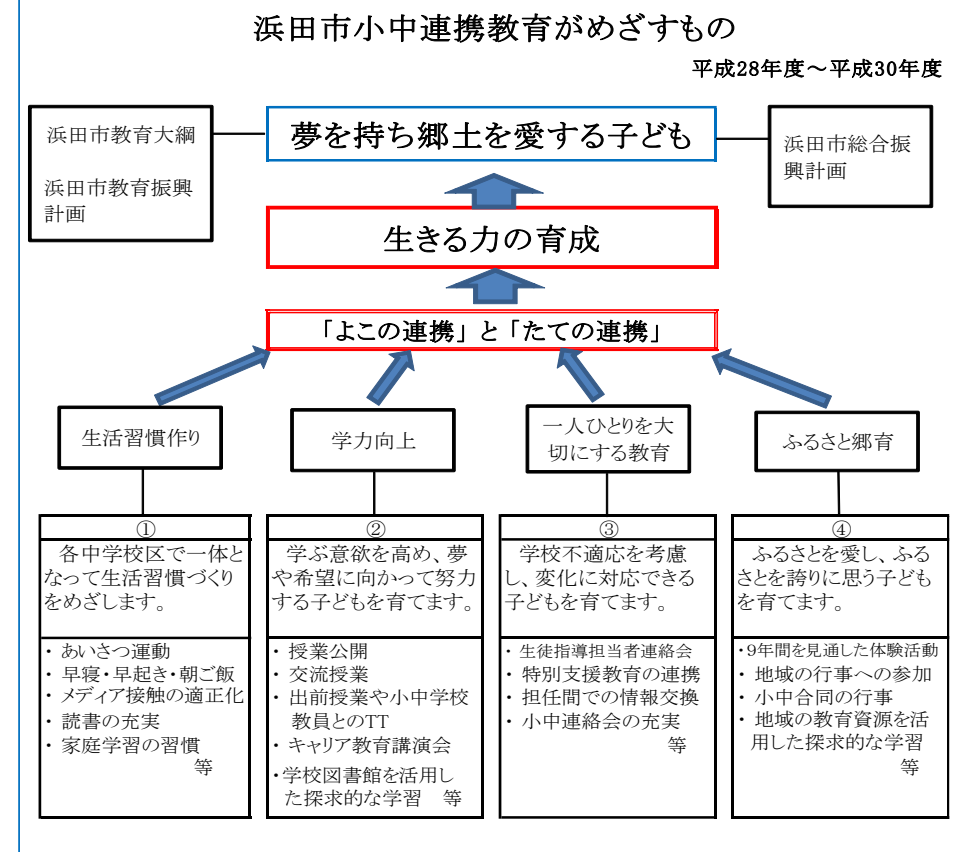
★「総合的な学習の時間」を中心とした取組ですが、2つの項目とも、スタート値を上回っており、子ども達の意識が高まっていると捉えられます。学校での学校図書館を活用する学習や調べ活動等が充実してきたと考えられ、継続してまいります。

平成30年度

浜田市小中連携教育実践の概要

《浜田市小中連携教育基本方針》 1 めざす子ども像(浜田市教育振興計画)

夢を持ち郷土を愛する子ども



「浜田市小中連携教育」は、平成21年度に「浜田市小中一貫教育基本方針」を示し、平成22年度より中学校区ごとの取組が始まりました。子どもたちの発達段階におけるそれぞれの課題に対応するために、幼・小・中一貫した「たての連携」を重視し、浜田市教育振興計画に掲げられた3つの子ども像「きまりを守り、生活リズムを正しくたくましく生きぬく子」「感性豊かで他を思いやり、人とのつながりを大切にする子」「夢や希望にあふれ、学ぶ意欲をもち、ふるさとを愛する子」の具現化に向けて、中学校区単位で「よこの連携」を大切にしながら、それぞれの実態を踏まえ、特色を活かしながら具体的に育てたい指導目標や指導内容を定めて取り組んできました。

平成27年度に第2次浜田市総合振興計画及び浜田市教育大綱が策定され、その理念を実現するために新たな浜田市教育振興計画が策定されました。今まで行ってきた「小中一貫教育」も新たな3年間が始まりました。この機会に、名称も、「浜田市小中連携教育」とし、新浜田市教育振興計画の基本理念に基づき、新たな基本方針に基づいて実践を行うこととしました。今年度は、新たなスパン(平成28年度～平成33年度)の上半期(平成28年度～平成30年度)の最終3年目を迎えたところです。

保護者の皆様にも、「浜田市小中連携教育」の各中学校区の取組の様子をご覧いただき、ご理解いただければと考えています。今後とも、ご支援・ご協力をお願いします。